

●春日部市民文化講座（第5回）

◆日 時：2013年3月27日(水) 10時（ぼぼら春日部6階会議室）～11時

◆テ ー マ：講演「私と着物～着物の楽しさ、極意、秘密」

講師：加藤 由紀江さん（「きもの ひしや」女将さん）

◆ゲスト紹介：埼玉県宮代町生まれ。きもの ひしや女将。都内の短大を卒業後、埼玉県庁婦人児童課勤務。その後、きもの好きが高じて、浅草台東区竜泉（樋口一葉ゆかりの地）の八代続く呉服屋「ひしや」へ嫁ぎ、36年間着物人生を歩む。日本の伝統文化を伝え継ぐ役割を、常に感じている。着物は日本の文化であり、世界に誇るべきもので、特別な人の為のものではなく、どなたにでも楽しんで欲しい。

■私と着物～着物の楽しさ、極意、秘密 私は着物が大好きで呉服屋に30数年前に嫁ぎましたが、最初の頃は熨斗紙に「壽」の字を良く書きました。そう赤ちゃんの誕生から、各家庭では着物を誂えて贈られたのです。そして、七五三、成人式、ご成婚と着物は、日本人の生活の一部にありました。今日は、そんな私が大好きな着物のお話をさせていただきます。



■きものに関する慣習行事



1. 初着(はつぎ): 初着は赤ちゃんが健康で健やか育って欲しいという祈りが形や柄に表現されています。お宮参りに掛けられることが多く、絵柄は女の子では、花車に十徳が描かれています。
2. 七五三: 次が七五三です。女兒は3歳で髪を伸ばす「髪置(かみおき)」、男児の5歳は初めて袴を着ける「袴着(はかまぎ)」、そして7歳は紐付きの着物に代わって本仕立ての着物と丸帯という大人の装いをする「帯解(おびとき)」なのです。
3. 十三参り: 十三参り(じゅうさんまいり)は、旧暦の3月13日(現在では月遅れで新暦の4月13日)に、男女とも数え年13歳のお祝いで、子供の多福、開運を祈って行われます。関東ではあまりみられません。
4. 成人式: 成人式は、ある年齢に達した子どもを一人前の人間として社会的に認める儀式です。
5. 卒業式: 袴の一つ紋の振袖があります。女子が袴を着けるのは平安時代に流行ったのですが、その後廃れ、明治時代に華族女学校(のちの学習院)で、下田歌子さんが流行らせたスタイルですね。
6. 結納、結婚式: 結納では、一般的にご本人は振袖、お母様は黒留袖、五つ紋の色留袖です。結婚式のご親族は、黒留袖や色留袖を着るのが一般的ですね。

■着物の知識

1. 家紋・喪装: 家紋は、家系などを表すために用いられた紋章で、平安時代の貴族から始まり、武士の間では敵味方を区別するために付けられました。着物に付けられるようになったのは、室町時代と言われていて紋章を付けた衣服のことを“礼服”と呼ぶようになりました。
2. きものの格・種類
 - ・礼装は、紋付き五つ紋の黒留袖、色留袖。振袖。・略礼装は、背に一つ紋の江戸小紋など。
 - ・正装は、紋がない訪問着など。・町着は、小紋、紬、御召(おめし)など。
3. 帯: 帯は、結納の時に結納金を“帯料”というように、両家を結ぶ、魂を結ぶという意味があります。また妊婦さんが5ヶ月に入ると付ける帯は、子どもとの魂を結ぶ帯という意味なのですね。帯の産地は、西陣、博多、桐生ですね。万葉集にも帯が出てきますが、当時は紐だったのです。それが、変化して袋帯では8寸の幅とされています。これは胎児の大きさになるのです。名護屋帯は、桃山時代から江戸時代中期に締められた帯で、肥前名護屋で織られた帯という説があります。御太鼓結びは、太鼓のように胴を丸く膨らませた締め方で、亀戸天神の太鼓橋にちなんで大正時代に花柳界の人たちが結んで流行らせたそうです。
4. 伊勢型・江戸小紋: 江戸小紋は、江戸時代に参勤交代で江戸に出てきた武士が袴に柄を付けたことが始まりです。有名なものは紀州藩の鯨模様、松本藩の行儀模様、赤穂藩の大小アアラレ模様が有名です。
5. 日本三大紬: 結城紬、大島紬、本塩沢紬が三大紬です。
6. 白生地: 白生地は、白糸で織った生地そのままの反物で、長浜ちりめん、丹後ちりめんが有名です。白生地1反は12mあるのですが、1反を織るのに2600個の繭が必要とされています。
7. 着付けの秘密: 毎日、着物を着て緩まないこつは、帯締めを一番きつく結ぶ、タオルによる補正、帯結びです。西洋人は体のラインを見せるのですが、日本人は隠すことでどこから見ても美しいのですね。

着物のイロハでしたが、着付けの話など勉強になりました。